

経営状況分析のしくみと留意点 ① 経営状況分析の全体像

はじめに

今月から『経営状況分析のしくみと留意点』と題しまして、経営状況分析における各分析指標の持つ意味をご説明しながら、財務諸表作成に際しての留意点を合わせて解説して参ります。

解説に当たっては、特に断りのない限り、法人の単体決算を前提とします。個人や連結財務諸表については、必要に応じて解説します。

なお、本稿は『どうすればY点が高得点になるか』を解説することが目的ではなく、『経営状況分析の意味を正しく理解するとともに、経営状況分析で適切な評価を受けるために、財務諸表を作成する上でどのような点に留意する必要があるか』を皆様にご理解いただくことが目的ですので、誤解のないようお願いいたします。

また、意見にわたる記述は私見であることをあらかじめ申し添えます。

1. 経営状況分析とは

経営状況分析を私なりの言葉で定義すると、『各種の経営分析指標を用いて、会社の収益性、安全性等の「経営状況」を評価し、採点したもの』といえると思います。一般にY評点と呼ばれているもので、最低点は0点、最高点は、法人の場合は1430点、個人の場合は1130点になります。

なお、本稿ではY評点の点数計算の方法の詳細を解説するつもりはありません。Y評点の具体的な算定方法をお知りになりたい方は、『経営事項審査の事務取扱いについて(通知)』(平成16年6月25日 国総建発第89号 国土交通省総合政策局建設業課長)を参照してください。国土交通省のホームページにある「サイト内検索」で検索すれば、この通知を見ることができます。

2. 経営状況分析指標

経営状況分析の指標は、収益性、流動性、安定性、健全性の4つの評価要素について、各3種類の分析指標、合計12の指標から構成されています。具体的には、以下のとおりです。

【収益性】

- ・ 売上高営業利益率
- ・ 総資本経常利益率
- ・ キャッシュフロー対売上高比率

【流動性】

- ・ 必要運転資金月商倍率
- ・ 立替工事高比率
- ・ 受取勘定月商倍率

【安定性】

- ・ 自己資本比率
- ・ 有利子負債月商倍率
- ・ 純支払利息比率

【健全性】

- ・ 自己資本対固定資産比率
- ・ 長期固定適合比率
- ・ 付加価値対固定資産比率

収益性は、いかに効率よく利益を計上しているかを計るものです。

流動性は、経営規模に比し、現金または現金化しやすい資産をどのくらい有しているかを計るものです。

安定性は、借入等の他人資本がいかに少なく、自己の資本で経営されているかを計るものです。

健全性は、資産負債資本のバランスがかたよっていないかどうかを計るものです。

ちょっとわかりにくいかもしれませんが、次回以降、各指標ごとの解説をしていくことで、ご理解いただけるかと思います。

おわりに

昨年末に明るみになった構造計算書偽装問題は依然として尾をひいており、加えて、今年に入ってライブドアの粉飾決算疑惑が世間に暗い影を落としています。一方、トリノオリンピックが開催され、日本人選手の清々しい活躍が毎晩テレビで放映されている今日この頃です。企業活動においてもトリノの日本人選手たちのように、『フェア・プレー』で悔いのない戦いをしたいものです。